

病防第116号
平成22年1月7日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第1号を発表しましたので送付します。

特 殊 報

平成21年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成22年1月7日
熊本県病害虫防除所長

- 1 病害虫名：トマト葉かび病菌レース 2.9、4.9.11
（葉かび病抵抗性遺伝子 *Cf-9* を持つ品種にも発病するレース）
〔病名：トマト葉かび病 *Passalora fulva* (Cooke)〕
- 2 発生植物：トマト・ミニトマト
- 3 発生確認の経過
平成21年6月に玉名地域の葉かび病抵抗性品種「CF千果」（抵抗性遺伝子 *Cf-9*）、9月に宇城地域の「CF千果」および上益城地域の葉かび病抵抗性品種「りんか409」（抵抗性遺伝子非公開）に、葉かび病の発生が認められた。発病葉から分離された菌株を、独立行政法人野菜茶業研究所の協力を得てレース検定を行ったところ、玉名地域で分離された菌株はレース2.9、宇城地域および上益城地域で分離された菌株はレース4.9.11であることを確認した。2つのレースは、県内初の確認である。これまで県内では、レース0、2、4、4.11の4種が確認されている（表）。
- 4 特徴
現在市販されている葉かび病抵抗性品種には、葉かび病抵抗性遺伝子 *Cf-4* もしくは *Cf-9* が導入されている。レース2.9は、*Cf-9* を持つ品種に、レース4.9.11は *Cf-4* と *Cf-9* を持つ品種に発病する（表）。
- 5 病徴
トマト葉かび病は、初め葉表に不明瞭な淡黄緑色の病斑が現れ、やがて葉裏に灰黄色から緑褐色のビロード状のかびを生ずる。病斑は次第に拡大して、円形あるいは葉脈に囲まれた不整形となり、かびの色も灰褐色から灰紫色に変わる。症状が進むと葉全体が

かびで覆われ、ひどい場合には葉が枯れあがる。

葉かび病抵抗性品種では、葉かび病と病徴の酷似したすすかび病も発生している。葉かび病とすすかび病は、分生子の形状が異なるため、検鏡することで明確に見分けることができる（参考）。また、葉裏に生じるかびの特徴から、肉眼でも見分けることができる（参考）。

6 発生生態

糸状菌の一種で、不完全菌類に属する。気温 20～25 の多湿条件で発病しやすく、特に施設栽培で発病が多く見られる。病斑上に生じた分生子が風によって飛散し、蔓延する。

7 国内での発生状況

*Cf-9*を持つ品種にも発病するレースは、福島県（レース 4.9.11）、群馬県（レース 4.9、4.9.11）、愛知県（レース 4.9）及び三重県（レース 4.9.11）で報告されている。

8 防除対策

(1) 葉かび病抵抗性品種を栽培しているほ場でも、葉かび病の発生に注意する。

(2) 発生が確認されたら、通常の葉かび病の防除対策を行う。

ア 多湿条件下で発病しやすいため、換気を良くし、過湿防止に努める。

イ 伝染源となる発病葉や不要な下葉などは早めに取り除き、施設外へ持ち出し処分する。

ウ 多発後は防除が困難なので、初期防除を徹底する。本病は葉裏から発生するため、葉裏にも十分かかるように薬剤散布を行う。

エ 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。

特殊報は、病害虫防除所のホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto>）に公開。

問い合わせ先

熊本県病害虫防除所

（熊本県農業研究センター生産環境研究所
病害虫研究室 予察指導係）

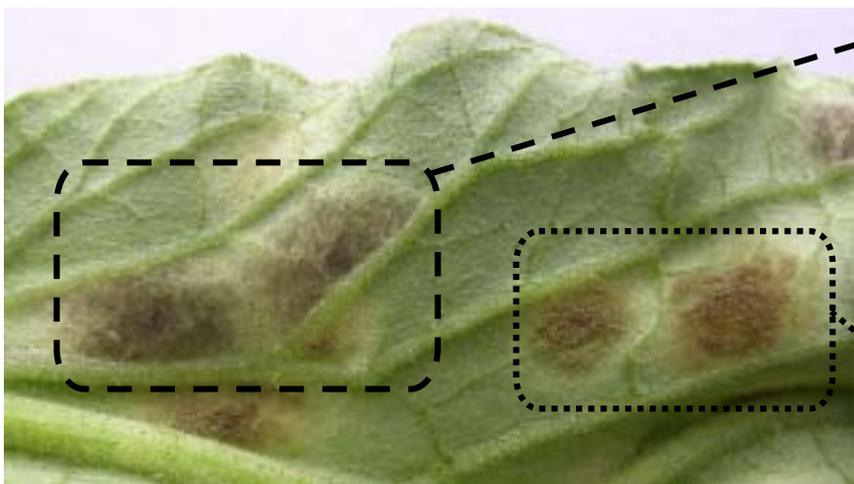
担当：東 TEL：096-248-6490

表 葉かび病抵抗性遺伝子と葉かび病菌レースの関係

品種が持つ 葉かび病 抵抗性遺伝子	県内で確認された葉かび病菌レース (網掛けは今回初確認のレース)					
	2.9	4.9.11	0	2	4	4.11
<i>Cf-4</i>	×		×	×		
<i>Cf-9</i>			×	×	×	×

注) : 発病する × : 発病しない

(参考) 葉かび病とすすかび病の病徴と分生子の比較



葉かび病とすすかび病の葉裏の病斑
(右囲：葉かび病、左囲：すすかび病)



すすかび病菌の分生子
(0~15個の隔壁を有する鞭状)



葉かび病菌の分生子
(単胞もしくは2胞の紡錘形)

葉かび病とすすかび病を肉眼で見分けるポイント

	葉かび病	すすかび病
葉裏のかびの色	明るめの灰褐色	黒に近い褐色
葉裏のかびの形状	盛り上がって立体的	盛り上がり無く平面的